



伝える、残す、写真の力

記録の意味と価値

ハネリスト
英 伸三
宇井眞紀子
公文健太郎
司会
佐々木広人
(「アサヒカメラ」編集長)



2017 11.5 回 10:00 開場

【主催】公益社団法人 日本写真家協会

有楽町朝日ホール (有楽町マリオン11階)

【共催】株式会社 朝日新聞出版 (アサヒカメラ)

【後援】文化庁 (予定)

【協賛】エプソン販売(株) / オリンパス(株) / キヤノンマーケティングジャパン(株) / (株)シグマ / (株)タムロン / (株)ニコンイメージングジャパン / 富士フイルムイメージングシステムズ(株)

© 英 伸三

9/15より
先着順 定員 600名

詳しくはホームページをご覧ください

www.jps.gr.jp



© 公文健太郎



© 宇井真紀子

伝える、残す、写真の力

記録の意味と価値

写真の主流がデジタルになり、また、カメラの性能が向上することで、写真はよく「写る」ようになりました。しかし、写真とは「写る」ものではなく「写す」ものといえるでしょう。そこには、「伝える」、「残す」という写真家の気持ちや意志があるからです。今回はその支えとなる、写真の最大の長所である「記録性」にスポットを当て、世代の異なる三氏それぞれの作品と活動の基盤であるドキュメンタリー写真を通して、記録の意味と価値について語っていただきます。



2017
11.5回 10:00 開場
有楽町朝日ホール
(有楽町マリオン11階)

【主催】公益社団法人
日本写真家協会
【共催】株式会社 朝日新聞出版(アサヒカメラ)

【後援】文化庁(予定)

【協賛】エブソン販売株式会社
オリンパス株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
株式会社シグマ
株式会社タムロン
株式会社ニコンイメージングジャパン
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社



英 伸三 (はなぶさ・しんぞう)
1936年千葉市生まれ。東京綜合写真専門学校卒。農村問題などを通じて日本社会の姿を追い続けた。1992年から中国の上海と江南一帯の明、清時代の面影を残す古鎮を訪ね、「改革・開放」の近代化政策によって姿を変えていく街のたたずまいと人々の暮らしぶりを記録している。日本写真家協会会員。現代写真研究所所長。主な写真集『農村からの証言』『一所懸命の時代』『上海放生橋故事』など。受賞、第7回伊奈信男賞など。



宇井真紀子 (うい・まさきこ)
1960年生まれ。武蔵野美術大学、日本写真芸術専門学校卒業。写真家・樋口健二氏に師事。1992年子連れでアイヌ民族の取材をはじめる。2009年より全国に暮らすアイヌ民族100組を撮影する写真集出版プロジェクト My portrait Myselfを開始、2017年写真集『アイヌ、100人のいま』(冬青社)を刊行。第4回さがみはら写真新人奨励賞受賞。第28回東川賞特別作家賞受賞。第1回笛本恒子写真賞受賞。<http://www.makikouji.com/>



公文健太郎 (くもん・けんたろう)
1981年生まれ。写真家。ルポルタージュ、ポートレートを中心雑誌、書籍、広告で幅広く活動。同時に国内外で「人の営みがつくる風景」をテーマに作品を制作。近年は日本全国の農風景を撮影し『耕す人』と題して写真展・写真集にて発表。その他作品多数。2012年『ゴマの洋品店』で日本写真協会新人賞。写真集に『大地の花』『BANEPA』『耕す人』、写真絵本に『だいすきなもの』、フォトエッセイに『ゴマの洋品店』などがある。



佐々木広人 (ささき・ひろと)
『アサヒカメラ』編集長。1971年秋田県生まれ。リクルートに入社し、海外旅行情報誌『エイビーロード』編集部に在籍。99年に朝日新聞社に入社し、主に週刊朝日編集部に在籍。同誌副編集長、WEB担当、宣伝担当などを経て、2013年9月から『アサヒカメラ』副編集長に。2014年4月から現職。

SNS 時代の写真ルールとマナー

日本写真家協会 編
新書判 256 ページ 朝日新聞出版
会場特別価格にてロビーで著者販売

ロビーで開催

講演者とJPS会員による作品講評会 WEB申込み(先着順) ※詳しくはJPSホームページをご覧ください。

同時開催(予定) 日本写真家協会コーナー / JPS展コーナー / 著作権コーナー / 日本写真保存センターコーナー